

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和4年度第1回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和4年8月19日（金） 午後1時30分～3時20分
開催場所	高松市生涯学習センター2階 大研修室
議 題	(1) 審議事項 (ア) 生涯学習事業の推進状況報告について (イ) 高松市生涯学習市民意識アンケート調査の素案について (2) 報告事項 (ア) サンクリスタル高松リニューアル基本構想について (イ) 高松市夜間教室事業について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	山神委員、岡委員、大村委員、青木委員、上原委員、野上委員、久保委員、 合田委員 (欠席委員1名)
傍聴者	0名（定員3名）

会議の経過及び結果

(1) 審議事項

(ア) 生涯学習事業の推進状況報告について

高松市生涯学習事業の推進状況報告について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

報告書の最後に新規事業があったが、これについて反応はどうか。

(事務局)

出前講座「家庭における就学前情報モラル教育について」は、最新のネットゲーム依存に関する状況、特に低年齢化が非常に進んでいるということについて十分御理解いただき、家庭でのルールづくりについて考える契機になったと、好感触を得ている。

(委員)

継続的に検証しながら、事業を実施していただきたい。

自主学習スペースの開放について、使用頻度はどうか。

(事務局)

昨年度は、夜間に試行実施したところ、高校生を中心に非常にたくさんの新しい方に来ていただいた。

今年度の春に本格実施を開始したが、拡充をして欲しいという意見があったため、現在、夏休み中の昼間にも試行実施している。

利用者の意見を聞きながら、拡充できる方向で検討していきたい。

(委員)

若い方の利用増加について、考えられる理由は何かあるか。

## 会議の経過及び結果

(事務局)

高校生等が自主学習スペースを探しており、若い方同士の口コミが考えられる。

また、生涯学習センターが開館20周年を迎えるにあたり、開設したインスタグラムを見て生涯学習センターに来てくれた方が友達に広めてくれていること、また、テレビや新聞にも取り上げていただいたためではないかと考えている。

(委員)

学生は、SNSを活用しているため、効果はやはり高かったと思う。

(委員)

1点目は、令和3年度で廃止したNo.7「子どもわくわく体験支援事業」やNo.10「高松嶺北子ども交歓会」について、廃止理由をお聞きしたい。

2点目は、高松型学校運営協議会について開催回数や内容等、どのような評価でA評価になったのかをお聞きしたい。

また、会議の中でもう少し保護者の意見を言える場があれば良いと感じる。

(事務局)

No.10「高松嶺北子ども交歓会」については、教育委員会と子ども会の共催事業として行っていたが、参加者数が集まらないことや、新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続いたことなどが廃止の要因となっている。

今後は別の形で、嶺北地域の子どもたちとの交流を深めていきたい。

(事務局)

現在、高松市では、全市立小・中学校に「高松型学校運営協議会」を設置し、地域の方々との意見交換の場が、まずは整ったということでA評価となっている。

今後は、御意見いただいたように、多様な方々との意見交換の場を充実させていく必要があると感じている。

(委員)

小学3年生や4年生を対象にした講演会等について教えていただきたい。

(事務局)

小学校3年生、4年生を対象とした「情報モラル出前授業」を行っている。それに加え、「スマート・メディア事業」を行っており、全小中学校の児童・生徒向けにチラシやワークシートを配布し、授業をしていただきながら、家庭内のルールづくりについて、親子で話し合う機会を作るよう働き掛けている。

また、「スマート・メディア」キャンペーンを行い、地域の方にも理解を深めていただきながら、市全体で子どもたちの情報モラルを啓発推進していきたいと考えている。

(イ)「高松市生涯学習市民意識アンケート調査の素案について」

高松市生涯学習市民意識アンケート調査の素案について、事務局から説明し、委員から次のおり意見があった。

(委員)

QRコードを読み取り、回答フォームにアクセスできるのは、今の時代に合った大変良い方法

だと思ふ。

「生涯学習」についての認識が個人によって異なるのは難しい問題である。

紙面に余裕があれば、「生涯学習」の具体例を入れることで、多少はそのイメージに結びついて回答していただける可能性もあるかと思ふ。

アンケート調査票については、資料②を利用するようなイメージでいいか。

(事務局)

資料②の内容で準備している。

(委員)

調査票が少し煩雑であるので、見栄えや、回答のしやすさにこだわった方が良く思ふ。

インターネットでの回答はどのような方法を想定しているのか。

(事務局)

インターネットでの回答については、まず紙ベースの調査票で設問を確認し、指定の回答フォーム「L o G o フォーム」に入力していただく。

紙での回答については、回答用紙に記載した上で返送していただく形を想定している。

(委員)

L o G o フォームとはどういうものか。

(事務局)

行政手続きのデジタル化を目的とした自治体専用のプラットフォームである。

(委員)

平成28年度の調査結果があると検討の幅も広がったと思ふ。

今回、L o G o フォームの使用は初めてか。

(事務局)

庁内では使用しているが、生涯学習市民意識アンケート調査について、L o G o フォームの使用は初めてである。

(委員)

L o G o フォームの活用により、回答者の傾向なども分析できると良い。

(委員)

通常、自治体で行うアンケートは紙ベースが多く、御年配の方の回答率が高い。若い方が回答できるような工夫が必要かと思ふ。

平成28年度の回答者全体の年代別割合を教えてください。

(事務局)

60代が約23%、70代が約28%であり、60代70代の方の回答で50%強を占めている。30代から50代の方はそれぞれ10%台という結果になっている。

(委員)

資料③-21(平成28年度)「下記高松市の生涯学習施設を利用したことがありますか。利用したことがある施設があれば、その施設名の番号に○をし、施設の満足度とその理由を選んでください。」について、この設問を削除した理由をお聞きしたい。

(事務局)

今回の調査では、【問5】「主にどこで生涯学習をしていますか(していましたか)。」で回答をいただくこととしている。

(委員)

この設問は、高松市が開設している施設に限らない聞き方をしている。

高松市民が対象であれば、高松市の施設を入れることで、それぞれの施設の充実、あるいは、改善につながると思うので、是非検討していただきたい。

(委員)

仕事をしている時や子育て中は時間がなく、アンケートが届いても回答する余裕がないため、設問量が多いと、回答する方の負担になるのではないかと。

アンケートの設問項目を減らすのは難しいが、より気軽に回答できる手法も検討していただきたい。

また、生涯学習事業の告知方法について、若い方に対してはSNSを使う等があると思う。しかし、年齢が上がると市報やコミュニティセンターのチラシ、口コミと情報源が限られている。

年代別にいろいろな所で情報が提供されていれば、参加される方が増えると思う。

(委員)

今回の調査について、紙ベースでの回答が主になるのではないかとということだと思うが、これについてどうか。

(事務局)

設問数について、前は35問だったところを、25問に絞った。

インターネットでの回答について、今回初めて取り入れるのでどのような結果になるのか見ていきたい。

また、本日いただいた御意見も参考にしながら、内容についても見直していきたい。

(委員)

検討をお願いしたい。

(委員)

資料③-21(平成28年度)「下記高松市の生涯学習施設を利用したことがありますか。利用したことがある施設があれば、その施設名の番号に○をし、施設の満足度とその理由を選んでください。」を削除したのは残念である。

私は、これまで地域で活動する中で、コミュニティセンターと密接に関わっていた。その中で、利用者から聞こえてくる声は人間関係であった。そういった意見も聞いていただきたいと強く思う。

(委員)

【問5】「主にどこで生涯学習をしていますか(していましたか)。」に関連した形で、何か、設問を増やすか、または、今ある設問の中で聞けるようなことがあればということだと思うので、検討していただきたい。

(委員)

簡単明瞭な設問であれば、回答しようと思う方も多と思う。一方で、設問内容も充実させたいため、完璧な内容での調査はなかなか難しい。

まずは、今回の内容でアンケートを実施し、気付いた点などを次回のアンケート実施の参考にしていただきたい。

(委員)

回答の選択肢は、平成28年度と同じということでもいいか。

(事務局)

選択肢の内容については見直しをしている。

(委員)

今回、新しい回答方法にもトライしてみて、その結果を今後を活かしてほしい。

本日の意見を踏まえて、11月にアンケートを送り、結果については今年度中にまとめるということでもいいか。

(事務局)

そのように進める予定である。

(2) 報告事項 (ア) 「サンクリスタル高松リニューアル基本構想について」事務局から説明  
サンクリスタル高松リニューアル基本構想について、事務局から説明した。

(イ) 「高松市夜間教室事業について」事務局から説明  
高松市夜間教室事業について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

高松市夜間教室は定員を8名程度としているが、今後、どの程度まで定員を拡充しようと考えているか。

(事務局)

今年度については、10回開催、定員を8名程度としている。

今後については、受講生の要望や問い合わせ等を踏まえ、事業の拡充についても検討していきたい。

(委員)

10名から応募をいただいているとのことだが、受講できるのは8名か。

(事務局)

10名の方すべてを受講生として決定する予定である。

(委員)

夜間中学ではなく、夜間教室という方式を採用しているのは、教育課程との兼ね合いでということか。

卒業証書が授与されるわけではないので、制度的に少し弱いところもあると思う。

定員を増やすのはもちろん拡充方法の一つだが、その位置付けを確かなものにする方向で今後、夜間中学設置の予定はあるのか。

(事務局)

夜間教室については、生涯学習の一環ということで講座として開設している。

(事務局)

夜間中学は、学校教育法第一条に定めのある学校と同じ教育課程にのっとった授業を行うことになり、9教科の学習等、中学校卒業の証書も授与する形となる。

高松市の方々にとって、夜間中学はどこまでニーズがあるのか、夜間教室を開設し、受講生の意見も聞きながら検討していくことになる。

(委員)

今回、生涯学習の講座として教室を10回程度行う。その状況とニーズを確認しながら、夜間中学の設置についても検討するというところでよろしいか。

(事務局)

その認識でよい。

(3)「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。  
取り組んでいることで、紹介したい内容がないか確認する。

**【事務局からの報告事項】**

- ・家庭教育コラム「必見！家庭教育のススメ」について紹介
- ・まなびCAN公式Instagram「イクゼマナビカン」について紹介

(委員)

色々な取組を行っていることがよく分かった。これからもSNSを活用していくことが増えていくと思う。

その他意見等はなかったので、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。

以上